

鹿児島農試で育成したサルスベリの新品種サルスベリ 『サツマ』と『トコナツ』について

上原裕美・小林正芳

(鹿児島県農業試験場)

春のツツジに匹敵する夏の代表的な花木としてサルスベリ (*Lagerstroemia indica* L. 百日紅) が挙げられる。サルスベリはその分布が仏教国に多いことなどから我が国でも寺院を中心に植えられ、観賞されてきた。現在ではこの木のもつ色の豊かさと木のおもしろさから、庭園、公園にもよく植栽され、又鉢物としての一歳サルスベリの改良も行なわれている。

鹿児島農試では、従来の高性(3~7m)で枝の伸びすぎる(1.5~2m)サルスベリにかわる矮性で多花性のサルスベリの改良を行ない、2品種を育成した。サルスベリは実生、さし木、取り木、株分けといずれの方法も良く繁殖するが、育成した2品種はさし木繁殖を行なった場合矮性、多花化の特性をよく発現する。

1. 育成経過

昭和38年にカントリーレッド、ハーディーパープルと花色が紫色の1系統を導入し、その実生を養成した。昭和39年は昭和38年度実生4,817個体から135個体を選抜した。昭和40年には135個体と2品種1系統より集団採種を行ない、15,600個体の実生を養成した。昭和41年も前年同様の採種を行ない、13,000個体の実生を養成した。昭和42~43年は昭和40年度実生より46個体を選抜した。昭和44~45年は選抜個体の育成、増殖を行なった。昭和46~47年にかけて昭和40年度実生選抜46系統より41系統を再選抜し、又昭和41年度実生より33個体を選抜した。昭和48年は昭和40年度実生の41系統より15系統を、又昭和41年度実生の33系統より17系統を選抜し鹿系番号をつけた。昭和49~51年は鹿系32系統の増殖並びにその特性

調査を行ない、昭和52年に鹿系32系統より7系統を選抜、昭和53年には7系統より3系統を選抜した。昭和54年、3系統より2系統を選抜し、それぞれ『サツマ』と『トコナツ』の品種名をつけた。

2. 特性概要

1) サツマ

7月下旬より開花する。明るい紫色で多花性、二番花、三番花まで良く咲く。矮性で枝は約45度の角度に伸長する。さし木後3~4年生で樹高85~95cm、幅100~110cmとなる。

2) トコナツ

7月中旬より開花する。濃い桃色で多花性、花は密に着く。枝はあまり角度を持たずに直上し、幅をもたない。さし木後3~4年生で樹高110~120cm、幅60~70cmとなる。

3. 整枝法

地上30cm内外で主枝を止める。その春先に伸びた芽のうち切り口に近い太い芽を3本程残して残りをかき取る。5月中旬になると伸びた芽の先端より分枝が始まるので、そのときに新芽を5~8cm残して切り取ると、そこより伸びてきた芽の先端に花が着いてくる。

第1表 記号の変更経過と品種特性

品種名	系統番号	鹿系番号	R.H.S.カラーチャート	開花始	枝の伸びcm	花房の長さcm
サツマ	40-1	鹿系1号	78-B	7月下旬	50~55	20~25
トコナツ	41-4	鹿系17号	57-D	7月中旬	35~40	30~40



第1図 樹型